

やってみよう!! ワークシート



新聞には毎日、たくさんの記事や写真、広告がのっています。世界的な大ニュースから身近な地域の話までさまざまです。神戸新聞社は、その中から知ってもらいたいことや深く考えてほしい記事を取り上げ、ワークシートを使って自宅学習などに活用してもらっています。今回は、28年前の阪神・淡路大震災の日起きた出来事を、子どもたちが体験を聞いて想像し、絵で伝えようとしているお話です。



阪神・淡路大震災28年

1月17日の産声描き、伝える

語り手だけで体験は伝わらない。聞き手がいて、その人がまた誰かに話す。記憶はそうして、後世へと継がれていく。
神戸市東灘区の造形絵画教室「アトリエ太陽の子」(中嶋洋子代表)。子どもたちが28年前の出来事に耳を傾け、想像し、絵を描いている。
語り手は中村翼さん(28)。1995年1月17日。阪神・淡路大震災が起きた日に神戸で生まれた。早朝の激震。父はおなかの大き

語り部の話をもとに、子どもたちは「1月17日」を描いた＝神戸市東灘区住吉本町2 (撮影・小林良多)

い母を守った。いつとき身を寄せた避難所から警察官の誘導も受けながら、病院へ。暗闇の中、懐中電灯に照らされ、産声を上げた。

中村さんに当時の記憶はない。両親から聞いた話を今は語り部として、伝えている。多くの命が奪われたがれきの街で、僕は生まれた。みんなが助け合って、つながった命。

教室の子どもたちは、中村さんの語りから、いろんな場面を頭の中に思い浮かべた。それぞれが絵筆をとり、画用紙に向かう。

できあがった作品をもとに、中村さんと震災のことを絵本にする。このプロジェクトは、神戸学院大の船木伸江教授(防災教育)と絵画教室、そして中村さんの共同作業だ。

神戸市立御影北小4年の林優奈さん(10)は、被災した病院で中村さんが誕生した瞬間を描いた。赤ちゃんを囲み、両親や看護師が涙を流している。

「大変だっただろうな。この出来事を、自分より小さな子どもにも知ってほしい」(林さん)

震災後に生まれた世代から、さらに次の世代へ。絵本が完成すれば、未就学児や小学生向けの防災教材として活用される予定だという。

絵の中に、あの日の記憶がある。命の重みが伝わってくる。

(上田勇紀)

1月17日の第2朝刊にのった記事

答えは2月5日の「週刊まなびー」にのるよ。



①中村翼さん(28)はいつ、どこで生まれましたか。記事を読んで空欄を埋めましょう

年 月 日、

が起きた日に で生まれた

早朝の激震。両親は から の

誘導も受けながら、被災した病院へ。暗闇の中、

に照らされ、産声を上げた

②中村さんは、みんなに助けられて生まれてきたことを誰に伝えましたか

③中村さんが生まれた瞬間を絵に描いた林優奈さん(10)は、この出来事をだれに知ってほしいのでしょうか

④震災のことを描いた絵本が完成すれば、何に活用されますか

⑤学習したり、家族や周りの人に聞いたりして、印象に残っている震災の話があれば書きましょう

もっとワークシートをやってみたいと思った人は、電子版「神戸新聞NEXT」の「神戸新聞NIE」コーナーでワークシートを検索してみてください。たくさんあるので興味のある新聞記事を選んでね。今回のワークシートの答えは、メール(kobe-nie@kobe-np.co.jp)か、はがき(〒650-8571 神戸新聞社「週刊まなびー」ワークシート係)で、名前と学年、または年齢を添えて2月4日必着で送ってね。正解者の中から、抽選で毎月10人に神戸新聞の記念品をプレゼントします。

22日週刊まなびー

ワークシートの
解答例

- ①【西宮】【十日えびす】【参拝一番乗り】【230】【3】
- ②【6】【かいもーん】
- ③例＝3年ぶり疾走、福男復活
- ④皆さんに福を分け与えられるような1年間を過ごしたい
- ⑤例＝最前列を引き当てたが、途中で転倒した